

8-4-10 ダム・発電専門委員会

1. 主な活動の記録

令和2年度においては、コロナ禍への対応のため、年度当初に予定していた①若手技術者を中心とした討論会・講演会、②ダム現場見学会、③地質技術報告会、④ダム設計に関する技術勉強会については、開催を見送った。

(1) 委員会の開催

専門委員会開催回数：6回（Web会議含む）

地質分科会開催回数：5回

(2) 協会活動等への協力・支援

「照査特別WG」に参画し、ダム分野におけるエラー事例の収集と要因分析に基づく品質セミナーのテキスト作成に協力した。エラー事例としては、設計2事例、調査2事例を作成した。

BIM/CIM推進委員会 基準要領等検討WG ダムSWGに参画し、「CIM導入ガイドライン（案）第4編 ダム編」の作成に対応した。主として、コンクリートダム、フィルダムにおけるBIM/CIMモデルの作成、更新及び活用の流れの例についての意見出し、及び作成を行った。

国土交通省 総合政策局 海外プロジェクト推進課からの「海外事業における本邦優位技術に関するヒヤリング」に対応した。ヒヤリングに先んじてダム部門の本邦優位技術の洗い出し、及び活用実績、施設管理技術の優位性、本邦技術を海外で活用させるために必要な取組等について調査を行った。

(3) ダム工事総括管理技術者会との意見交換会

平成13年度からダム工事総括管理技術者会（CMED会）からの呼びかけに応じ、年1回意見交換を行っている。令和2年度は、11月30日に開催し、ダム・発電専門委員会からは「ダム再生事業について」、CMED会からは「ECI方式について」、また両者共通として「働き方改革について」に関する発表および意見交換を行った。意見交換会には、専門委員が10名、CMED会の常任幹事および（一財）日本ダム協会から総勢23名が参画した。なお、新型コロナウイルスの

感染防止を図るため、約60名収容可能な会場に対し、22名の対面での意見交換とし、会場に来場できない方は、Web形式での参加とした。

意見としては、以下のようなものがあった。

- ① ダム再生事業・ECI方式に関する意見交換
 - ・仮設が大規模かつ高度となるダム再生事業は、仮設設計に施工業者の技術を設計に活かせるため、施工時の手戻り等を軽減でき事業の早期完成が可能となり、「ECI方式」の採用メリットが大きい。
- ② 働き方に関する意見交換
 - ・現場管理は、高性能カメラを用いることで、現場作業ヤードへの人の集中を軽減した。
 - ・若手の人材育成は、コロナ禍においても打設番を担当するなど、従来のOJTでやっていくしかない。
 - ・今後減少していく人材の確保のためには、労務単価の見直しは望ましい。
 - ・4週8休閉所とすると、グリーンカットや型枠移動の時間がなくなる。コンサルタントが計画する施工計画においても、その時間確保を考慮して考えて行く必要がある。

2. 次年度の活動について

次年度は以下の活動を実施する。ただし、コロナ禍の状況によっては柔軟に対応するものとする。

- ・協会活動等への協力・支援
- ・若手技術者を中心とした討論会・講演会
- ・ダム工事総括管理技術者との意見交換会
- ・ダム現場見学会の開催
- ・地質技術報告会の開催
- ・ダム設計に関する技術勉強会の開催

（ダム・発電専門委員会委員長 井根 健）